

| セッション名 | 演者 ※敬称略 | 演題名 | オンデマンド 配信 |
|---|------------|---|--------------|
| 在宅医療特別委員会企画 「在宅での創傷治療の実践法 ～在宅医療アンケート調査からみた参入障壁を取り除くためのKnow-How～」 | 栗原 健 | アンケート調査結果報告と診療の現状・課題について | ○ |
| | 綾部 忍 | 病院所属医師が訪問診療に取り組む際の障壁と解決策について | ○ |
| | 中川 宏治 | 創傷外科医が在宅診療医として取り組む際の障壁と解決策 | ○ |
| | 松本 健吾 | 勤務医として在宅診療と連携する方法 | ○ |
| | 渡邊 雅貴 | 総合診療を行う医師から観た創傷外科医への要望 | ○ |
| 3学会合同ガイドラインシンポジウム 「形成外科診療ガイドライン2026年の展望と課題」 | 鳥山 和宏 | 形成外科診療ガイドライン2026年の展望と課題 | ○ |
| | 時岡 一幸 | ガイドライン作成におけるエビデンスの評価 | ○ |
| シンポジウム1 「最新熱傷治療の実践法：如何に、綺麗に、早く、低侵襲で治すか」 | 櫻村 勉 | 深達性Ⅱ度熱傷創（DDB）を早くきれいに治すための新しい治療戦略 | ○ |
| | 本間 健人 | 如何に、綺麗に、早く、低侵襲なデブリードマンを行うか： 当院におけるネキソブリッドの使用経験 | ○ |
| | 松村 一 | 人工真皮をうまく使って、如何に熱傷治療のグレードを上げるか | ○ |
| | 草島英梨香 | 自家皮膚細胞移植用キットRECELL®による熱傷治療の進化 -実践から見えた新たな治療戦略 | ○ |
| | 辻本 賢樹 | 特殊部位の熱傷におけるRECELL®の効能 | ○ |
| | 坂本 道治 | 乾燥同種培養表皮を用いた低侵襲な熱傷治療 | ○ |
| シンポジウム2 「TIMEからTIMERSへの実践法：Advanced wound careの最前線」 | 梅本 千洋 | 当院でレオカーナ治療を行った患者予後と今後の課題 | ○ |
| | 諏訪 健志 | EpiFix®を使用した静脈鬱滯性潰瘍9例の検討 | ○ |
| | 森川 周至 | OASISとEpiFix それぞれどう使い分ける？ | ○ |
| | 東田 隆治 | AutobiomaterialによるAdvanced wound care: PRP and Biocacktail | ○ |
| | 佐藤 智也 | 創傷治療におけるSocial and patient-related factorsとは何か | ○ |
| シンポジウム3 「ケロイド・肥厚性瘢痕治療の実践法：薬剤・放射線・外科療法のプロトコール」 【形成外科領域講習】 | 土佐真美子 | ケロイド・肥厚性瘢痕に対する保存的治療の実践法： 当施設におけるプロトコールの効果と課題 | ○ |
| | 土肥 輝之 | ケロイド・肥厚性瘢痕に対する外科的治療の実践： 診断から術後管理までの当施設プロトコール | ○ |
| | 村尾 尚規 | ケロイド・肥厚性瘢痕の制御を目指す： ステロイド・放射線・外科的切除による集学的治療戦略 | ○ |
| | 前田 拓 | 耳介ケロイドに対する外科療法のプロトコールの実践 | ○ |
| | 富士森英之 | ケロイド核出術、Needle Scar Dissection法を用いた当院でのケロイド治療 | ○ |
| | 岡部 圭介 | ケロイド術後再発症例の治療について | ○ |
| | 林 利彦 | ケロイド攻略の実践法：患者個々のオーダーメード治療 | ○ |
| シンポジウム4 「糖尿病性足病変に対するSurgical offloading の実践法：その適応、手技、その習得」 【形成外科領域講習】 | 吉田 周平 | 糖尿病性潰瘍に対する皮弁移植術 | ○ |
| | 南方 竜也 | MTP関節過伸展を伴う足趾変形に対する伸筋腱延長術による外科的免荷手術 | ○ |
| | 山下雄太郎 | 当科でのoff-loading surgeryへの取り組み | ○ |
| | 綾部 忍 | Surgical Offloadingの適応と限界 | ○ |
| | 北野 豊明 | 糖尿病性足病変における再発の現状と外科的免荷治療の導入への取り組み | ○ |

| セッション名 | 演者 ※敬称略 | 演題名 | オンデマンド 配信 |
|--|------------|--|--------------|
| パネルディスカッション1 「我々のやり方を教えます！ 手術創に対する東洋医学の応用」 【形成外科領域講習】 | 鳥谷部 莊八 | 手外科専門医による漢方薬治療の実際～いかに不定愁訴を抑え込むか～ | ○ |
| | 池野 由佳 | 漢方薬を用いた疼痛管理 | ○ |
| | 上田 真帆 | 手術創および急性炎症性皮膚疾患に対する漢方薬の有用性 ～柴苓湯と治打撲一方の検討 | ○ |
| | 鈴木 理央 | 創傷治療における駆瘀血剤・桂枝茯苓丸の可能性について | ○ |
| | 馬場 香子 | 鼻骨骨折整復術後の辛夷清肺湯と小青竜湯を用いた管理 | ○ |
| | 岡田 宇広 | ～漢方薬と鍼治療を取り入れた美容形成外科～ | ○ |
| パネルディスカッション2 「我々のやり方を教えます！ Biofilm対策の実際」 | 野村 暢彦 | 観てわかる最先端バイオフィルム研究 | ✗ |
| | 森川 周至 | 慢性創傷におけるBiofilmとの付き合い方 | ○ |
| | 遠藤 淑恵 | 当院のBiofilm対策としての創傷衛生 ～特に創閉鎖前のwound bed preparationについて～ | ○ |
| | 長谷川泰子 | 感染抑制作用を要すドレッシング材を使いこなす | ○ |
| | 圓尾 明弘 | 骨軟部感染症における持続局所抗菌薬灌流CLAPの応用 | ○ |
| パネルディスカッション3 「我々のやり方を教えます！ 形成外科領域でのBarbed Sutureの使い方」 | 富田 興一 | 乳房再建におけるBarbed Sutureの使い方教えます！ | ○ |
| | 堂後 京子 | Barbed Sutureを用いる乳輪縫Knotless Purse String Suture法 | ○ |
| | 樋口 慎一 | Barbed sutureを用いた空腸吻合 | ○ |
| | 小田 柚香 | 口唇裂関連でのbarbed sutureの使い方の工夫 | ○ |
| | 藤田 賢吾 | 口唇外鼻形成術におけるBarbed sutureによる 両側鼻翼基部引き寄せ縫合 | ○ |
| | 細見 謙登 | 頭部におけるBarbed Sutureを用いた閉創方法 | ○ |
| パネルディスカッション4 「我々のやり方を教えます！ 我々の瘻孔治療の工夫 ～患者のQOLを妨げる瘻孔に対峙する！」 | 澤良木 詠一 | 瘻孔を伴う創傷の管理～bFGF含浸人工真皮の可能性～ | ○ |
| | 門田 英輝 | 頭頸部手術後の瘻孔はNPWTでどこまで治療できるか？ | ○ |
| | 森川 周至 | 慢性膿皮症に対するDelloofingの治療選択 | ○ |
| | 右田 尚 | 膀胱腔瘻、直腸膀胱・腔瘻に対する我々の治療戦略 | ○ |
| | 岸邊 美幸 | 当院で行っている口蓋裂術後瘻孔の閉鎖法 | ○ |
| | 高須 啓之 | 頸部に生じた瘻孔の手術治療 | ○ |
| | 松田 健 | 「抜去できない人工物」による瘻孔 | ○ |
| パネルディスカッション5 「我々のやり方を教えます！ 創傷管理に特化した看護師と一緒に創傷治療」 【形成外科領域講習】 | 小野田 聰 | 非常勤施設でのWOCナースとの共同による創傷外科治療 | ○ |
| | 松村 恵奈 | 一般形成外科医が、創傷専門看護師とともに進行する創傷治療 | ○ |
| | 齋藤 順平 | 難治性創傷の治療戦略：創傷管理に特化した看護師との連携 | ○ |
| | 山口 梨沙 | 医療資源に乏しい地域における創傷管理の理想と現実 | ○ |
| | 古川 雅英 | 特定行為研修修了看護師との協働による難治性創傷の治療および特定行為指定研修機関としての取り組み | ○ |
| パネルディスカッション6 「我々のやり方を教えます！ 陳旧性顔面骨骨折に対する低侵襲な骨切り術」 【形成外科領域講習】 ※本セッションでの単位取得は、現地参加のみとなります。 オンデマンド配信受講での単位取得は不可となりますのでご注意ください。 | 櫻山 和也 | 陳旧性顔面骨骨折に対する治療経験 | ○ |
| | 山下 昌信 | 顔面骨切り術における「低侵襲」について考える | ○ |
| | 林 稔 | 陳旧性前頭骨骨折に対する低侵襲治療の検討 | ○ |
| | 森山 壮 | 陳旧性鼻骨骨折に対する鼻骨骨切りに関して | ✗ |
| | 山路 佳久 | 陳旧性顔面骨骨折に対する骨延長術を用いた整復術 | ○ |